

2018年3月5日

フットボール・コーチングセミナー30 第1部 報告書

【概要】

主催：神戸ウイングスタジアム株式会社
主管：NPO法人SCIX
(特定非営利活動法人スポーツ・コミュニティ・アンド・インテリジェンス機構)
後援：神戸市教育委員会、神戸市スポーツ教育協会、兵庫県ラグビー協会、
関西ラグビーフットボール協会、兵庫県サッカー協会、
関西学生アメリカンフットボール連盟

開催日時：2018年2月25日(日)12時30分～14時30分

司会：SCIX事務局 武藤規夫氏

指導者：【ラグビースタッフ6名】

Kobelco Steelersより 芦谷勇帆選手、勝木来幸選手、橋本皓選手、
徳田健太選手、今村順一氏

SCIXより 近藤洋至氏

【サッカースタッフ1名】

ヴィッセル神戸サッカースクールコーチ・金正旭氏

【アメリカンフットボールスタッフ6名】

関西学院アメリカンフットボール部より

安西雄平選手、潮博史選手、尾崎佑真選手、油谷修選手、
鎌田拓蔵選手、橋本典子氏

参加者：指導者、小学生3～6年生 約60名

場所：ノエビアスタジアム神戸芝生広場

プログラム：12:30 開始

14:30 終了

■第1部

『小学3～6年向けフットボール3種クリニック』

対象：指導者、小学生3～6年生

指導者：【ラグビースタッフ6名】

Kobelco Steelersより 芦谷勇帆選手、勝木来幸選手、橋本皓選手、

徳田健太選手、今村順一氏

SCIXより 近藤洋至氏

【サッカースタッフ1名】

ヴィッセル神戸サッカースクールコーチ・金正旭氏

【アメリカンフットボールスタッフ6名】

関西学院アメリカンフットボール部より

安西雄平選手、尾崎佑真選手、潮博史選手、油谷修選手、楯田拓蔵選手、橋本典子マネージャー

趣 旨：今回で30回目を迎えるフットボール・コーチングセミナー。サッカー、ラグビー、アメリカンフットボールといった3種フットボールのトップチームが神戸を本拠地とすることから始まったこの企画。今回も第1部は小学3～6年生を対象にしたフットボール3種目のクリニックを実施。小学3～6年生に3つのフットボールを体験してもらいながら、スポーツの楽しさを実感してもらい、また、それと同時に、各種スポーツ指導者の皆さんには、トップチームのスタッフによるコーチングの様子を間近でご覧いただくことで、日々の指導現場に活かしていただくということを目的としています。

内 容：



寒さ厳しい今年の冬もようやく終わり、春もすぐそこ！と感じる空気の中、フットボール・コーチングセミナー30開催。SCIXオリジナルTシャツに身を包んだ、およそ60名の参加者たちが、ノエビアスタジアム神戸芝生広場に集結しました。SCIX事務局・武藤氏の挨拶により第一部は開幕。まずは、指導にあたるコーチングスタッフ陣が紹介されました。ヴィッセル神戸サッカースクールコーチの金正

旭氏からは「上手になるコツは楽しむこと」という言葉があり、参加の子どもたちも「おもいきり楽しもう！」とワクワクした表情を浮かべていました。

まずは、その金コーチが指揮をとっての準備運動。金コーチと参加者のひとりが二人一組になり見本を見せます。じゃんけんをして負けた方が、勝った人の周りを走るというもの。「さあ、やってみよう！」の合図で、子どもたちがワ〜ッと広がり、二人一組で「最初はグー！じゃんけんポイ！」と声を出し、キャッキヤしながら繰り返し、走ります。次は、負けた方がケンケン、負けた方が後ろ向き走り、負けたら馬跳び…と次から次へとメニューが変わり、子どもたちも楽しみながら身体を温められたのではないかと思います。「遊び感覚でできる



メニュー」、さらに「飽きる前に新たな課題を提示する」という、楽しませ続ける工夫が準備運動からも感じられました。

準備運動の後は、3つのグループに分かれて、いよいよ3種類のフットボール体験！



ラグビーグループは、タグラグビーを行うにあたりウォーミングアップとして、まずは「抜き合い」。コーチングスタッフがディフェンス役をし、ひとりずつコーチに向かって走っていき、コーチが手を出した方と逆側に走り抜けるというもの。素早い判断と身のこなしが要求されます。何度か繰り返した後は、次はコーチが腰のタグを獲りにかかります。さらには二人組でラグビーボールをパスしながら…と徐々に難度がアップ。獲られないように身体をうまく使って交わすのはなかなか至難の業。トップリーグの選手相手に「抜けた！」とあらば、どんどん楽しいと感じることでしょう。15分ほどかけてウォーミングアップをした後は、お待ちかねの試合。4チームに分かれ2コートで実施します。腰の左右につけたタグを相手チームに獲られないようにしながら、ラグビーボールをもってトライするタグラグビーを、コベルコスティーラーズの選手たちと一緒に体験。ナイスプレーには「おお～いいね～！」、はたまた

ファウルには「ノックオン！」とスティーラーズの選手たちの声も飛び交う中、子どもたちは一所懸命駆け抜け、試合を楽しみました。





サッカーグループは、まずウォーミングアップとして、サッカーボールを使ってボール感覚を掴むメニューを実施。準備運動同様、金コーチから次々ボールフィーリングを身につけるためのメニューがテンポよく行われます。ボールを手に持って走る、ドリブルしながら走る、ドリブルしながらコーンを回る…と、こちらも徐々に難度がアップ。途中途中では、ボールの蹴り方や、ドリブルをしながらコーンを回る時のコツなどのレクチャーも。「コーンを回る時は、どこを蹴ったらいいと思う？」といった具合に、一方的にやり方や答えを押し付けるのではなく、子ども達に質問を投げかけながら、答えを導き出すというスタイル。子どもたちも積極的に手を挙げ、発言します。子どもたちが自ら考えるようにという意図が感じられます。また、「OK!」「ナイス!」などと、子どもたちのプレーを認め、讃える声かけも随所に。コーチに声をかけられる度に嬉しくなり、子どもたちのやる気もアップしている様子。その後のパス練習では、ボールだけでなく、相手も見て蹴る、さらにボールをもらう方もパスが欲しい時に名前を呼んでコミュニケーションをとる…とパスの基礎を学びます。パス練習の後はラグビーグループ同様 4 チームに分かれてのミニゲーム。コーン二つをゴールに見立てたミニゲームを行い、白熱した試合が展開されました。試合前と終了後にはきちんと握手をし、お互いに礼を尽くすというシーンも見られました。



3 種目のもうひとつ、アメリカンフットボールグループは、関西学院アメリカンフットボール部の選手とマネージャーが指導にあたります。はじめに指導陣が自己紹介。「のりピー」「エネゴリくん」といったニックネームに、子どもたちは爆笑。自己紹介で笑いをとり、楽しい雰囲気のまま、まずはウォーミングアップ。ラグビーグループ同様、腰にタグを付け、そのタグを獲られないように逃げ回るタグ鬼ごっこ。関学の学生たちも、子どもたちと一緒にグラウンドを駆け回ります。獲られまいと必死に逃げる子どもたち。リーダーの合図で集合し、タグを1本獲った人、2本獲った人、3本獲った人!と手を挙げ、皆で頑張りを讃え合います。その後はアメリカンフットボールを使ってのパス練習。指導陣がまずはお手本。ボールの持ち方、投げ方をレクチャーします。楕円球を初めて投げるといふ参加者も居るでしょう。その難しさ、楽しさを知ったのではないかと思います。



ラグビー、サッカー、アメリカンフットボールと3種それぞれを順に体験し、参加者たちは爽快感と、やりきった感でいっぱいの表情。最後は武藤氏の合図で集合し、コーチ陣より感想コメントをいただき、恒例のスタジアムをバックにしたの集合写真。参加者はもとより、指導陣、それを見学する保護者、指導者…全員が笑顔で第一部終了。トップ選手、トップコーチとのふれあいは、子どもたちの

記憶に深く刻まれることでしょう。

3種フットボールの指導陣が「得意な人は、苦手な人を思いやりながらボールを蹴る」「パスをする時は相手を思いやって愛情あるパスをする」と、奇しくも口を揃えて「思いやり」という言葉を発していました。今回のピョンチャンオリンピックでの活躍にも見る通り、団体競技に不可欠といえる「思いやり」の大切さ。指導陣の言葉からも、そして体験することで身を以て感じられたのではないかと思います。

欧米では幼い頃から一つの競技に特化してスポーツするのではなく、あらゆる競技を体験してみる、楽しむことが当たり前とされています。ですが、日本では、ひとつのことをやり続けることを美德とする風潮があることも関係して、他の競技に触れることがなかなか少ないように思います。あらゆる競技を体験することで見えてくること、得られるものがあるのではないのでしょうか？ フットボール・コーチングセミナーは今回をもって最後となりますが、また形を変えて、このような機会をつくっていければと思っていますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。



以上